

研究課題名	骨髄のヘマトゴン細胞および大顆粒リンパ球による造血幹細胞移植の予後予測基準の検討
研究の意義・目的	<p>同種造血幹細胞移植後の予後予測については患者さんの背景、疾患関連因子、移植関連因子など、様々な角度から研究が行われていますが、まだ正確に予測することはできません。現在報告されていることは、同種造血幹細胞移植後に骨髄中にヘマトゴン細胞（造血幹細胞移植後等にみられる、見た目は白血病細胞に似た正常な細胞）が認められた症例では生存期間が延長し、感染症や急性 GVHD（造血幹細胞移植後に、ドナー由来のリンパ球が患者さんの正常臓器を異物とみなして攻撃することによって起こる合併症）の発症が少ないことと、同種造血幹細胞移植後に LGL（大顆粒リンパ球）増多症となった症例では、再発率低下や生存率向上など移植後の予後が良好であったということです。</p> <p>本研究では移植後の骨髄におけるヘマトゴン細胞と LGL 増多との関連性、移植後免疫再構築過程におけるヘマトゴン細胞と LGL の増減や、GVHD と感染症の発症や予後との関連性について詳細な検討を行います。移植後早期の骨髄検査において、ヘマトゴン細胞と LGL を同時に評価することによって、GVHD や、CMV（サイトメガロウイルス）をはじめとする感染症への罹患リスク、移植後免疫再構築速度などを本研究によってより正確に予想できる可能性があります。</p>
研究を行う期間	研究機関の長の研究実施許可日～2023年12月31日
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2017年9月1日～2020年8月31日までの期間に大阪市立大学医学部附属病院にて同種造血幹細胞移植を施行された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>試料：【骨髄塗抹標本】</p> <p>診療情報等：【診断名、年齢、性別、疾患経過、生存状況、死因、移植情報（ドナー年齢、移植ソース、前処置強度、GVHD 予防、GVHD の有無と重症度、感染症の有無、臨床検査情報（骨髄細胞数、骨髄細胞分類、細胞表面抗原検査、免疫グロブリン定量、血球数算定、白血球分類、破碎赤血球、末梢血リンパ球サブセット）】</p>
試料・情報の他機関への提供提供	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学講座のみで行い、他の機関に試料・情報は提供いたしません。
この研究を行っている共同研究機関	この研究は大阪市立大学大学院医学研究科血液腫瘍制御学講座のみで行います。
試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学 研究責任者 日野 雅之
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	<p>大阪市立大学大学院医学研究科 血液腫瘍制御学</p> <p>（担当者氏名）藤原 牧子</p> <p>電話番号：(06) 6645-3881</p> <p>FAX：(06) 6645-3880</p>